



HEART to HEART

tea time

Q&Aおしえてのコーナー

5～6月こうのとり外来の成績

INFORMATION

編集後記

『治療に付き添ってきた僕たちの思い』

〈Aさん夫〉

所詮男ができることは限られているからこそ私は治療に関心をもち妻とよく話し合いをしてきた



"不妊治療とは何をするんだろう?"最初に頭の中に浮かんできたのがこの思いでした。子供が欲しいから通院する訳ですが、子供が出来ないのを女の人のせいだけにしたくなかった事、いくら仕事が忙しくてもそれを言い訳にしたくなかった事などで自分にもできる事がなんなのか探した結果、できる限り妻の通院に同行していました。所詮男ができることは限られています。精子を出してしまえば後は医師任せのなところがあります。もっとはっきり言ってしまえば自分たちにできることなんかほとんど無いのかもしれない。だからこそ私は治療に関心をもち妻とよく話し合いをしました。幸いにして流産を乗り越えて待望の子供をもうじき迎える訳ですが、病で逝った父に孫を見せてあげられなかった事が唯一心残りです。

〈Aさん妻〉

辛い時八つ当たりをしたり感情的になる私の話しをとにかくよく聞いてくれた事が支えになっていた

私達夫婦は数年間タイミング治療をしてきましたが、義父が余命わずかと解り、せめて妊娠したことだけでも報告できればと体外受精にステップアップしました。その時主人は嫌な顔をせずに賛成してくれました。私達夫婦は何事についても話し合うスタンスだったので、治療についてもかなり話し合いました。夫が医療に携わる職業柄という事もあります。感情的になり八つ当たりする私の話しを根気よく聞いてくれましたし、なるべく通院も一緒にしてくれました。主人にとっては当たり前のような、些細なような、そんな感覚だったのかも知れませんが私には治療に関心を持ってくれてる事だけでもどのくらい支えになったかしれません。だから「よし頑張ろう」という気持ちにいつもさせてもらえてたと思います。不妊治療中というのは夫婦の良い面はもちろん今まで見えなかった悪い面も見えてきます。この原稿が発表される頃には出産の予定の私達ですが振り返ってみて治療という事を通して互いに成長できた良い経験だったと思っています。

〈Mさん夫〉

麻酔から覚めかけた妻が看護師さんに「赤ちゃんできるよね」と聞いた姿を見て出来ることはしてあげたいと強く思った

結婚して2年目、二人してどうしても子供が欲しいと言う訳ではなかったのですが、妻の年齢的なこともあり縁あって諏訪マタに通い始めました。妻は仕事を続けながら通院、両立は大変そうではありましたが、男の私にはその全ては実感できない所がありました。一年ほど通院したものの良い結果は得られず、妻が相談室に行き体外受精について話を聞いて来て二人で話し

合いました。私は初めそこまでして(母体にも負担がかかる)子供を望むのは否定的でしたが、このまま続けても時間ばかり過ぎてしまいそうで、妻自身不安を持ちながらも受けたいという気持ちを持ち始めている事が伝わり体外受精を試みました。

そして初めての採卵日。何をするのか分からないので私も不安だったのですから妻はもっと不安だった事でしょう。麻酔から覚めかけた妻が、看護師さんにおぼろげに「赤ちゃんできるよね」と聞いた姿を見て、私に出来ることはしてあげたいと強く思いました。所詮、男には精子を提供することしか出来ないのですが体外受精時(治療時)になるだけ一緒にいてあげる事で精神的に支えてあげられるならばと、出来る限り付き添うことにしています。一回目では卵を戻すことができず二人で凹みました。この時相談室に初めておじゃましましたが、こんな?カウンセラーらしからぬカウンセラー〔破天荒な明るさと親しみのある〕がいる、その事でも諏訪マタは信じられる病院と改めて感じました。二回目、三回目と胚移植まで行きましたが結果には結び付きませんでした。今回四回目。胚移植までは行きました。治療を受け感じてきたことは、不妊治療は二人で行うもの。だって、二人が望むことじゃないですか。

〈Mさん妻〉

注射の苦手な私と針を刺すのも見ていられない主人。でもいつか「よくやったね」と笑って話せる日が来ることを信じて

結婚は「してみた」ものの、仕事が大事で、独身気分となんの変わりもない共同生活が楽しいと感じていた私には、子供が欲しいなんて正直「みじん」もありませんでした。なのに、なぜ今不妊治療をして体外受精まで。こんな私でさえ自分の子供が欲しいと望むのだから、結婚してそれを望んでいない人などいないと今は感じています。今私達は体外受精の道を選びました。初めて相談室を訪れた時夫婦二人でも楽しいのに、なぜ子供が欲しいのか、治療は続けるべきか、自分でも整理のつかない漠然とした気持ちを、優しく受け入れて聞いてもらえたことに涙が出ました。治療を始めた時に自分を追い込むまではしないと決めていたのに、感じていないところで気付かないうちにそうなっていたことに、本当は辛かったんだと認識出来て、相談室を訪れてよかった、ここはそんな場所なんだと感じました。

そのことをきっかけに、治療に対してもう一度二人でじっくり話をしました。採卵時はもちろん、胚移植は帰りが大変だからと言い、判定日にはいい結果でなかった時の精神状態を思い、いつも一緒に来てくれる主人には感謝でいっぱいです。

子供が本当に私達にとって必要なのかまだ分かりませんが、この人とだから治療も頑張ってもらえるんだあと感じています。泣くほど悩んだ、体外受精でも簡単には妊娠に至ってくれずに、本当に一步一步なんだと感じています。子供を授かるということは、奇跡、神秘で、生まれ来るその日までには、いくつものステップがあり、私達は今いくつまで経験出来たのだろうか?そんなことを思えることが出来たのは、私の人生にとってはプラスです。注射の苦手な私と、針を刺すのも見ていられない主人、もう最後にしたいと祈りながらも、諦め切れない二人の気持ちがあるから、いつか「よくやったね」と笑って話せる日が来ることを、今はただただ信じて。まだまだ迷いは尽きず、結論も出ず、感情も日々変化し、明日はまた言いようのない辛い気持ちになるのかもしれない。そんな思いを繰り返しながらも、常にひとりじゃないという気持ちだけは強くあります。

〈Hさん夫〉



麻酔がきいているにも関わらず涙を流しながら部屋に戻って来た妻に自分はただその手を握りしめているしかできなかった

いつも妻がお世話になりありがとうございます。私達は今までタイミング法で頑張ってきましたが今回じっくりと話し合い体外受精への一歩を踏み出しました。当日2人で病院へ行きいよいよ現実が開始されました。妻は部屋へ戻ってくる時、麻酔が効いているのにもかかわらずなぜか涙を流していました。もちろん言葉もうまくしゃべれないのですが何かを口にしてただ泣いているのです。その時私は本当に何をしたいのかわからずひたすら彼女の手を握り締めていました。"こんなにも頑張っているのに、俺はこんな事しかできないなんて"とやるせない気持ちで一杯になっていました。麻酔がきいた後に何を泣いていたのか本人に尋ねたら、えっ?私泣いてたの?と書いていました。すべての事が終わり判定の日。吉川先生から妊娠していますと告げられた時は本当にうれしく思い、先生とそして妻に心から感謝しました。体外受精を決心するまでには時間がかかりましたが私達は挑戦してみても良かったと思いました。不妊治療を始めて妻の辛い顔を見てきました。しかし、実際は私が思っている以上に辛かったのではと思います。今思うと、もっと優しく話を聞いてあげれば良かった、もっと一緒に通院すれば良かった、もっと何か出来る事があったのではないかと後悔の気持ちばかりですが、でも夫婦一緒に頑張れる所は頑張ってきたとは思っています。出産までにはあと何カ月かありますが今より更に協力できる事は協力していきたいと思っています。最後に吉川先生、スタッフの皆さん本当にありがとうございました。そして妻にも、お疲れさまでした。そしてこれからが本当の始まり。一緒に頑張っていこう。

〈Hさん妻〉

体外受精スタートの日の受診の際、一旦出したカルテを引き上げてしまう程に土壇場まで迷っていた私だった

タイミングからのステップアップを意識して説明会を受け、大勢の人が聞きにきている事にまずはびっくりしました。先生の説明を直接聞いてテキストだけではわかり切らなかった部分がかき取り理解できたためになった時間でした。しかし、いざそこへ踏み出すのに勇気が持たずタイミング療法を継続していました。しかし、このままで本当に私達の子供はできるのかとどうにもやり場のない不安とイライラで夫婦間がぎくしゃくしはじめてしまいました。ようやく決心をした生理の2日目、1診のポストにカルテを入れたもののそんな土壇場に來てもまだ、ほんとにこれで良かったのかとどきどきしてしまい相談室へ飛び込みました。"どうしよう、今日が2日目に来たのに今さら何焦っちゃってんだろ"と泣く私の様子を見て一旦出したカルテを引き下げてくれました。そしてそれからカウンセラーさんを前に、「自分達で決めた事、もうタイミングをみていただけじゃ嫌だ、出来るかわからないけどやれることはやってみよう」決心してきた事を改めて一つ一つ口に出して自分の気持ちの最終確認し、そして診察室へ入りました。判定日、吉川先生から妊娠していますと聞いて勇気を出して良かったと2人で大喜びしました。心配性の私を本当に支え続けてくれた夫。不妊治療というのは一人で頑張るものではなく2人で協力して乗り越えなければならぬものだとつくづく実感しました。信頼出来る先生に出会えた事も本当に幸せだと思います。



ちょっとお茶でもいかがですか？
日頃皆さんの思っている事やつづやきをのせていくコーナーです。

✿ K・Oさん ✿

私は結婚3年目、不妊治療2年目の27歳です。昨年仕事を辞め、不妊治療に専念しようと今年の1月から諏訪マタに通い始めました。検査の結果は幸いにもどこも異常はなかったのですが、やっぱり私だけできないのです・・・まだ27歳だけど、周りの友人は計画通りすぐに子供ができ、私だけ取り残されていくような焦りと、先の見えない不安で押しつぶされそうになり、何度も何度も泣きました。仕事をしていればしていたで、周りから「まだ作らないの?」「早く産んだほうがいいわよ」という言葉に傷つき、仕事を辞めればこのストレスがなくなると思ったのもつかの間、一人になる時間が多すぎるせいか、余計に不妊治療のことばかり考えてしまう始末…。私は夫と結婚してそれだけで充分幸せなはずなのに、子供が出来ないということでも不幸のどん底に居るような気になってしまいました。あれこれ一人で考えていると、月2回諏訪マタに通院することまでもが苦痛になってしまい、もう通うのを辞めようかな?と思うようになりました。

この不安な気持ちをどうにかしたいのもあって、最後に相談室に行って話を聞いてもらってからに辞めにしようと思いました。この気持ちを人に伝えること、すごく勇気が必要だったけど、やっと勇気を出して初めてこのとりの相談室の扉を開くことができました。私の中の思いつめた気持ちを全部吐き出すと、なんとカウンセラーさんが笑顔で褒めてくれたのです!「Oさん、よくここへ来て話しをしてくれたね。この相談室に入って来たことがあらたな一歩だよ!」と。私はそんな事ではダメだと怒られるかも!と内心ビクビクしていたので、驚いたと当時に心がとってもホッとして軽くなりました。そして考え方の転換として「不妊治療をしている私としてだけじゃなくて、不妊治療もしている私って自分はどうだろ?」と言われハッとしました。そして話しの最後には「今のあなたをまず見つめる。そして変わりたい私を紙に書き出してみる。一つ一つが実現できるには、どうしたらいいか考えてみるの」そう言われ、私も何をしようかとわくわくしながら入る前の気持ちと180度違った気持ちで相談室を出ることが出来ました。

私はすぐにやりたかったことを始めてみました。やったことのない世界に飛び込んでみて、今までと違った人達と知り合い世界が広がりました。バイトも初めから病院に通っていることを告げ、それでも採用してくれるところが見つかり、働き始めることになりました。そして人と比べる事はやめました!私がいいと思えばそれでいいと思います。

今は今しかないし、これから先どうなるかわからないけど、自分を信じて、今しか出来ないことを思いっきり楽しむ事にしました。気持ちを前向きに考えられると、こんなにも毎日が楽しくなるなんて思ってもみませんでした。今ももちろん月一回の排卵日を忘れたわけではないけど、これからの私は残りの29日間を趣味にバイトに、思いっきり明け暮れることができるでしょう。だって今は不妊治療もしている私になれたから。今本当に毎日が楽しくて幸せです!



❀ Y・Yさん ❀

私は諏訪マタにお世話になって1年が経ち、もうすぐ41才になろうとしています。主人と出会ったのは今から約3年前で、信じられない程のスピードで結婚話がどんどん進み3ヵ月後



には入籍をして一緒に暮らしていました。お互い年齢も年齢で一日もはやく赤ちゃんを授かりたいという気持ちがあり他の病院で受診した所、左の卵巣が7~8cmに腫れていて経過を診ながらタイミング法や人工授精をしてきましたが妊娠には至りませんでした。結婚が急に決まったということと、勤続20年を目前にしている仕事を辞める決心が持てず、仕事と家庭を両立させていました。しかし、仕事の忙しさから思うように病院に通うことができずストレスは溜りどちらも中途半端のように見え、昨年の3月に思い切って仕事を辞めることに決めました。

それからすぐ不妊治療に力を入れている諏訪マタに通い吉川先生にお世話になりました。治療はすぐに始まり、左卵巣囊腫の腫れを引くために経膈超音波ガイド下卵巣囊腫穿刺吸引アルコール固定術を行い、次の生理が始まったら不妊検査を始める予定でした。ところが、予定日を過ぎても生理は始まらず、尿検査の結果妊娠していることが分かりました。「環境が変わればすぐに授かるよ!」と周りの人から言われていた通りになり、何よりも私自身がいちばん驚きました。しかし、その喜びも束の間で、6週を過ぎたところで赤ちゃんの心拍は止まり流産してしまいました。それから3ヶ月は身体を休める意味で通院を止め、その間に気分転換の意味も含めホームヘルパーの資格を取りにいきました。

9月から治療を再開し、本格的に不妊の検査をしながらタイミング法を行っていきました。10月に同居している主人の父が大病で入院し、父のためにも一日も早く孫の顔を見させてあげたいということから体外受精を考え夫婦で説明会にも参加しました。その説明会で、本題に入る前に先生が「子供を欲しいと願っている人達の本当の希望は子どもをつくる事ではなく、子どもを生んで育てること。」とおっしゃった言葉に共感し迷うことなくステップアップを決めました。それに当たって、左の卵巣囊腫を3分の2切除する手術を2月に行い10日間の入院をして、3月に始めての体外受精に挑戦。妊娠反応は出たものの赤ちゃんの心拍は確認されませんでした。2度目の流産は結構立ち直りが早く、起こったことに対して悲しむのではなく次に進みたいという気持ちのほうが強かったです。人生なかなか自分の思う通りには進まないものですね。しかし、私にはどんなことが起こってもそれを受け止めていかれる支えとなる言葉があります。その言葉にであったのは、私がカトリックの幼稚園に勤めている頃、ある保育者の大会に参加した時でした。

『神様は決してその人に乗り越えられない試練は与えない。その人に必要な事だから与えている。その試練を乗り越えた時には必ずその人に恵みを与えてくれる』この言葉を聞いた時、絶対に乗り越えられるのであれば、暗く落ち込むのは止めようと思いました。神様がそれをどう乗り越えていくのかを見守っていてくれる、私に必要なことであるのならありのままを受け止めようと思えるようになりました。結婚も遅い方でしたが、きっと主人に巡り会う為にとずっと独身でいたのだと思っています。そして今とても幸せです。

赤ちゃんに恵まれないことも悲しいことではありますが、私には必要な試練で、きっと乗り越えられると思っています。

結果妊娠できなかったとしても、きっと大切なものを神様から教えてもらえるのだと思っています。

最後になりますが、諏訪マタで治療ができること、吉川先生やスタッフの方々と巡り会えた事、これも神様の導きだと思いうれしく思っています。諏訪マタでの治療は不思議と一人だけでがんばっているという思いはありません。先生をはじめスタッフの方々の暖かい対応が私をそう感じさせてくれるのだと思います。この環境の中で、そして人との出会いに感謝の気持ちを忘れずにこれからも治療を続けていきたいと思っています。本当にいつもありがとうございます。

以下のコーナーは

web上には掲載されませんのでご了承下さい

information

5月~6月ごろのこの外来の成績

